

(橈骨遠位端骨折に伴う尺骨遠位部骨折に対する内固定の検討)に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成 29 年 08 月 02 日 ～ 平成 31 年 03 月 31 日

〔研究課題〕 橈骨遠位端骨折に伴う尺骨遠位部骨折に内固定は必要か

〔研究目的〕 橈骨遠位端骨折に伴う尺骨遠位部骨折(手関節部:手首の骨折)は、特に高齢者においてしばしば発生します。橈骨遠位端骨折(親指側の骨)の手術の有効性は広く認められていますが、尺骨遠位部骨折(小指側の骨)に関しては、手術が有効性であるというものや手術をしなくても結果に差が無いとする報告があります。実際に、尺骨遠位部(小指側の骨)に変形や骨の付き悪い人にも日常生活に問題のないことがあります。これらのことをふまえて、橈骨遠位端骨折(親指側の骨)に伴う尺骨遠位部骨折(小指側の骨)に手術が必要かどうかについて検討します。

〔研究意義〕 橈骨遠位端骨折(親指側の骨)に伴う尺骨遠位部骨折(小指側の骨)に対する手術に有用性がなければ、不必要な手術が避けられ、医療費の削減にもつながると考えられます。

〔対象・研究方法〕 本研究の対象となるのは、帝京大学病院で外傷センターを受診され、橈骨遠位端骨折に伴う尺骨遠位部骨折のうち橈骨遠位端骨折に手術を行った患者様です。個人を特定できる情報を除外した形で、年齢、性別、患側、受傷原因、開放骨折の有無、尺骨遠位部骨折型、術後外固定期間、追跡期間、臨床成績、関節可動域、握力、単純 X 線像による尺骨長および骨癒合などのデータを登録します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部救急医学講座・同附属病院外傷センター

〔個人情報の取り扱い〕 データは匿名化(個人が特定できる情報を除外)した形で登録されていますので、個人が特定されることはありません。帝京大学でデータを分析する際は、研究代表者が責任を持ってデータの管理を行います。データは研究目的以外に使用することはありません。研究成果は個人が特定できないような形で発表します。お申し出により登録をしないことができます(登録後でも、お申し出によりそれ以降の分析から個人データを除外することは可能ですが、お申し出時点より前の分析および発表済みの研究結果からの削除はできません)。お申し出により診療上の不利益をこうむることはございません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者： 救急医学講座(外傷センター)病院准教授 黒住健人

研究分担者： 救急医学講座(外傷センター)助手 宮本英明

住所： 板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表) [内線 33129]